

第3部 通訳・介助についてのニーズ調査

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

盲ろう者の生活の状況や通訳・介助派遣の利用状況や要望などを把握するにより、盲ろう者向け通訳・介助員の今後の養成のあり方やカリキュラムを検討するための基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の対象

通訳・介助員派遣事業に登録している盲ろう者 16 名

3. 調査の基準日

平成 24 年 12 月～平成 25 年 1 月

4. 調査の方法

(1) 調査対象者の選定

在住地域、障害の状態・程度、コミュニケーション方法、盲ろう者団体との関わりの程度などに偏りが生じないように、盲ろう者向け通訳・介助員派遣事業の受託団体 8 か所の協力を得て、「通訳・介助員派遣事業に登録し、頻繁（週 1 日以上）に利用している盲ろう者」で、且つ「盲ろう者団体でリーダー的な立場にある盲ろう者とそうでない盲ろう者」をそれぞれ 1 名ずつ、計 2 名の紹介を受けた。

(2) 調査対象者の通訳・介助支援

盲ろう者向け通訳・介助員派遣事業の受託団体に、調査の通訳を担当する通訳・介助員 2 名を紹介するよう依頼した。通訳・介助員の選定にあたっては、①調査員の質問内容を適切に調査協力盲ろう者に伝えられる、②調査協力盲ろう者の発信が音声以外（手話等）の場合は、その表現を適切に読み取ることができ、③調査協力盲ろう者との関係が良好ということに留意するよう依頼をした。調査対象者が地元以外の通訳・介助員を希望する場合は、別途、全国盲ろう者協会が通訳・介助員の手配を行った。

(3) 調査方法

事前に作成したインタビューガイドを元に半構造化面接を行った。触手話や指点字、手書き文字といった盲ろう者特有のコミュニケーション手段を用いる盲ろう者には通訳・介助員の通訳を通して、音声によるコミュニケーションが可能な盲ろう者には、面接者自身の音声で聞き取りを行った。

調査時間は約 90 分～240 分程度であった。

なお、インタビューについては、本人の許可を得たうえで、IC レコーダー、デジタルビデオカメラに録音、録画した。

(4) 調査者

インタビューにおいては、通訳・介助員として 15 年以上の経験がある者、盲ろう者支援団体職員として日常的に盲ろう者と接している者など 3 名が調査者になって面接調査を実施した。

(5) 調査場所

原則として調査協力者の自宅で行ったが、利用者の希望により、プライバシーが確保できる静かな場所（公共施設など）でも実施した。

5. 調査項目

(1) 生育歴・障害歴

①視覚や聴覚の障害を受障したのはいつごろですか。

- ・視覚障害の発症の経緯
- ・聴覚障害の発症の経緯
- ・そのときの生活の状況（仕事・家庭など）

②現在までどのように生活してきましたか。

- ・受障後の生活の様子
- ・コミュニケーション方法の変化
- ・福祉サービスの利用の経緯（種類・時期）
- ・盲ろう者団体を知った経緯
- ・通訳・介助者派遣事業の利用に至る経緯（時期）

(2) 現在の生活と要望

①現在はどのように暮らしていますか。

- ・1週間の活動の状況
- ・福祉サービスの利用状況（利用場面、利用時間、回数）

②現在の暮らしの中で、お困りのことはありますか。

(3) 通訳・介助者について

①通訳・介助者派遣事業をどのように利用していますか。

- ・主な利用内容
- ・利用している通訳・介助者の人数
- ・通訳・介助者の依頼方法（直接依頼・事務所依頼、指名の有無）
- ・利用時間、回数（週、あるいは月単位）
- ・通訳・介助派遣の使いやすさ・使いにくさ

②通訳・介助者について、どのような思いを持っていますか。

- ・良かったと思うこと（喜び・楽しみ）
- ・悪かったと思うこと（不愉快・不満）

③通訳・介助者に求めることは何ですか。

- ・機能・役割
- ・関わり方・資質

④通訳・介助派遣を利用しはじめたときと、いまとでは通訳・介助者に求めることは変わりましたか。

- ・機能・役割
- ・関わり方・資質

(4) その他

①福祉制度やサービスについて、要望したいことはありますか？

②通訳・介助者の養成について、思うことがあれば、ご自由にお話してください。

第2章 結果の概要

1. 調査協力者の基本的属性

調査協力者の基本的属性は以下の通りである。

表 3-2-1 調査協力者の基本属性

ID	性別	年齢	障害種別	コミュニケーション方法		盲ろう者団体での役職
				発信	受信	
A	女	70代	全盲難聴	手話	触手話	無
B	女	60代	弱視難聴	音声	音声、筆談	有
C	男	60代	全盲ろう	手話	触手話、手書き、指文字	有
D	女	50代	弱視ろう	手話、筆談	手書き、触手話	無
E	男	40代	全盲ろう	音声	指点字、手書き	有
F	女	60代	弱視難聴	音声	音声	無
G	女	60代	全盲難聴	音声	音声、指点字	有
H	女	60代	全盲ろう	音声	手書き、点字	無
I	女	30代	弱視ろう	接近手話、筆談	接近手話、筆談	有
J	男	70代	全盲難聴	音声	音声	無
K	女	50代	弱視ろう	手話	触手話	無
L	女	50代	弱視ろう	音声、手話	接近手話、指点字、筆談、手書き	有
M	男	50代	弱視難聴	音声	音声	有
N	女	30代	全盲難聴	音声	音声、指点字	無
O	女	40代	弱視ろう	手話	触手話	無
P	女	40代	弱視ろう	手話	触手話	有

2. 調査結果についての分類結果

録音、録画したデータをもとに逐語録を作成した。そのうち、通訳・介助員の利用における困難やニーズについての発言を切片化したところ、80の発言が得られた。その発言を同種の意味合いを持つと判断されたものを集め、概念化したところ25の概念が得られた。さらに25の概念を分類したところ、①通訳技術、②移動介助技術、③対人援助技術、④職業倫理、⑤心理的サポート、⑥近い関係、⑦熱意・意欲、⑧既存の制度ではカバーできない支援、といった8の上位概念が得られた。分析結果の詳細は次の通りである。

(1) 通訳技術

①ことばの伝達

- ・講演を聞けるとか、そういうのもいいです。ちゃんと内容が聞ける、あと様子がよく分かる、その話しも聞けて、楽しいですね。いろいろ、いい。通訳してくれるし、介助してくれて、安心できる。手話通訳を聞いてくれて、とてもいいです。(A)
- ・話が基本なんです、触手話は要するにまた手話と違うんですよ。例えば、その赤、白とかそういう、花にしても、菊、桜とかいろいろありますよね、そういうところが分からないので、触手話としてちょっと難しいので、手書きにするとか、そういう工夫。手書き文字だけ出来る人もいますけれども、花と言ってもバラ、桜、ユリとかいろいろありますね。手話だと花、花で同じなんで分からない、私、読み取り出来ない、そういうところの注意ですね。触手話の表し方ですね。(A)
- ・通訳介助さんも上手い下手があって、通じる通じないっていうのがありますよね。そういういろんな状況があるので、やっぱり通じないと困るっていう面がありますね。だから、通じない時は、もう2度とその方はお願いしていません。(C)
- ・通訳・介助員ってやっぱりね通じるっていうことが大事。通じない時はもう遠慮しないで言ってますけれども、通じないっていうのが一番困りますね。(C)
- ・話しが通じないことかな。手話で話しが通じればいいのだけど、なかなか通じないところがある。私が手話で表わしてもそれを通訳者が読み取れないときがあって、そういうときは困ります。例えば、買い物に行ったときに、私が欲しいものの名前を言うのだけれども、それを通訳者がわかっていると思うんだけどもそれを読み取れない。(D)
- ・友の会のかたについては、さっきも言ったように、小さくて聞こえないことも教えていただけて、本当にあの、助かっています。やっぱり聞こえないと、何ていうのかな、消極的になっちゃうっていうか、んー会議そのものも、だんだんこう気が乗らなくなってしまうので。(F)
- ・特に金額とか、細かい金額、数字ね、を言う時に、あの、料金表とか見て、私のほうじゃない反対側を見ておっしゃった時に、聞き取れない、駅とか雑音もありますしね。数字を言われる時に、やはり、補聴器のほうを、入るように言っていただけると確実に聞こえる、聞きかえすことが多くなっちゃう、よく聞こえなかった。え？いくらだった？ってもう一度私のほうからくこともあるし、周りに雑音があるところとかではやっぱり補聴器に入れるのはなかなか難しいですよ。(F)
- ・補聴器に入れることに対してこんなに技術があるって思わなかった、知らない方、区のガイドヘルパーさんの場合はどうしても大きい声になってしまいますよね、そうするとどうしても他の方とか周りの雑音とかにも影響されてしまうから、補聴器に上手く入れてくださることの技術はすごく大事ななと思う。

- ・盲ろう通訳者には厳しく、そういう通じないとか、そういうようなことがないように厳しくしていただきたいと思います。通じないような通訳は困ります。(K)
- ・通訳に関しては、自分は音声通訳がほとんどだから、ちゃんと聞こえるように自分に入れてほしい。(M)
- ・相手がしゃべり終わってから通訳されたんじゃちょっと反応鈍すぎる。(M)
- ・ガイドヘルパーがあまり通訳しないですね、細かく。だから、通訳・介助者はやっぱり通訳をしてくれる、店員さんが言ったこととか、誰かが声かけてるよとかそういう点はやっぱり通訳・介助者の方がよかったかなと思いますね。(N)
- ・以前は1人で行っていた、あるいは父と一緒に通院していたので、検査を受けている間は父と先生が話すだけで、私には情報が入ってこなかった。家に帰った後、父がメモを書いて見せてくれるだけだったんです。だから、情報が少なかったんです。初めて通訳・介助をお願いして、通訳・介助者と一緒に行ってビックリしたのは、先生が通訳・介助者に向かって話している。それを全部、通訳・介助者が私に対して手話で伝えてくれた。それで、初めて、先生に聞きたいことをすぐ閃いて「先生に聞きたいことがあります」って通訳者に伝えて、で、通訳者に伝えてもらって、で、その内容を手話で通訳してもらって、お医者さんに答えてもらう。で、いろいろ質問をすることができた。情報をたくさん得ることができました。それがすーごいよかった。その時から、派遣を利用しようと思ったんです。(O)
- ・例えば、講演を聞く。説明会に行って説明を受ける、そういう時は、まず、通訳の技術のいい人がいいと思います。通訳の内容がわかれば講演の内容がよくわかるので、上手に通訳してもらえ人を選びたいと思います。気持ち的にはまあちょっと嫌でも、通訳がうまければ、その人たちをお願いをしようと思います。(O)
- ・いつも会ってないから、ポチポチ触手話も覚えているようなので、初めて会うと、手話が通じなかったり、いろいろ教えても時間がかかったりしてなかなかコミュニケーションがとれにくいからです。(P)

②状況説明

- ・とにかく、コミュニケーションが通じないということが、状況説明がないことが一番困りますね。他にはないです。(C)
- ・いろんな状況説明をいろいろしてもらっていいので歩く時はいいですね。(C)
- ・周りの様子について、花が咲いてても、お店がいっぱいあるとか何やさんがあるとか、情報があると覚えているのにこう都合がいいといいますか、あのただ歩くよりはいろいろ回りの様子がわかると楽しいし…。(F)
- ・私が迷ってるんやったら、決めるための情報を与えてくれるんやったらまだいいねんけどね、通訳の人はね。ただその情報が足りない人。(L)
- ・私はしいて言えばさっき言ったように周りの様子とか、あとやっぱり人の顔、なんかこれは行くっていうか一緒にその場所へ、仲間のいるところへ行って覚えていただくしかないことですし。あとは、そんなにはないかな。やっぱり声が聞こえないから誰が私に話しかけてるのがわからない、そうですね。(F)
- ・通訳もれがあつて、結局誰が言ったんだかわからなくて、結局状況が全くわかんなかったりする。(M)
- ・いろんなことの情報収集がもらえるってことが一番よかったかなと思うんですけど… 例えば、お店に行った時に、こんなお店が新しくなって、こういう品があるよとかそういう情報がもらえたりというのもよかったかなと思いますけど…。(N)
- ・買物に行く時、通訳・介助者と一緒に、服は何がいいとか、かわいいのはどれとか、いろいろ買物して、

おいしいもの何食べようかとか、料理はどうしようかとか、そういうの教えてもらいながら買物するのもとても楽しいです。(P)

(2) 移動介助技術

①個々に応じた介助

- ・例えば、歩行とか、階段とか、動きが分からない。私は本当は自分のやり方が、あるのですけれども、ちょっと危ない。要するに慣れない人だと、危ない。要するに慣れている人だと安心して出掛けられて、それがいいと思う。(A)
- ・初めて会った人は、ちょっとわからないものもあるので、ぶつかったりもするし、経験が浅いと、ぶつかったりします。慣れた人が、二人いるんですけれども、なかなか慣れていないと、ちょっとぶつかってしまったりとか、そういう経験もあります。(A)

②状況変化に応じた介助

- ・そういうの何にも言わないで、エレベーターとかエスカレーターとかというのをはっきりと教えていただきたいですね。エスカレーターのところ、そこを触れないで乗ったり、そういう合図がないというのが一番困りますね。(C)
- ・後、交通、階段とか、あと、地下鉄とか、降りる時の、乗り降り、バスの乗り降り、あと、幅の広さとかいろいろ、違いますよね。いろいろ違うので危ないので、そういうところを十分に注意して欲しいということです。そういうところ、気をつけて欲しいなあと思います。(A)

③集中力・注意力

- ・盲ろう者から言われたことをきちんと聞いて、例えば、電車降りないといけないのに間違えて降り損ねてしまうとか、そういうこともあります。だから、盲ろう者の言うことをきちんと聞いて通訳・介助していただきたいなと思います。電車に乗った時には、周りをちゃんと注意をして、降りる場所というのをきちんと確認をしておくということが大事だと思います。(K)
- ・車の運転中に触手話通訳をされるとちょっと心配ですね。信号で止まってから話をするのはいいんですけども、運転中に触手話で運転されると自分の方が心配になります。(C)
- ・移動支援に関しては、少なくとも、ぶつけられないとか安全とか効率的な移動支援はあるよね。(M)

(3) 対人援助技術

①盲ろうに対する基本的配慮

- ・「ちょっと待ててね」がどこか行っちゃったりとかね。戻ってきますけどね。その「ちょっと」が長い。10分とか15分とか。(G)
- ・ちょっと触れていると、その人のわずかな動きでその周りの状況判断ができるという問題があります。全然触れてないと、本当にいくらすぐ横に座っていても、1人ぼっちというか不安に駆られる。そういうことを他の場所で学んできて、その通訳の方は私の時にちょっと触れていてくれる。ありがたいなあってそんな感じ。(H)
- ・盲ろう者が集まる場所を見ていたらね、通訳者の服装がみんないろいろ。うちの県はみんな黒一いの

着てるねんけど、他の県では、何を考えてるんだか。もっとロービジョン、弱視、盲ろう者への対応について、みんな本当に勉強が必要やと思う。(L)

②個別化

- ・全盲の方に対するやり方と我々、ロービジョンの介助のやり方とは違うと思うんですよね。わざわざ触らなくても、言葉で伝えれば、わかるから、それは自分の聞こえの状態とかあるいは見え方の状態に合わせて、対応して欲しいということですね。(B)
- ・書き方、歩き方、早くなる、慣れてくると。通訳の人がベテランになると、書き方や歩き方が早くなっていくという感じがする。普通です。私の場合は、年を段々としているもんですから、若い頃の自分と比べて感覚が鈍くなっているし動きも鈍くなっているのが自分でもわかるんです。そのためにゆっくりしてほしい。歩くのもちいーと速度落としてほしい。書くのもゆっくりしてほしいというのが、年齢が進むにつれて思うようになってきたことです。(H)
- ・盲ろう者の様子を見ながら周りの様子、雰囲気を読み取って、通訳・介助をしてほしいという思いがあります。(I)

③自己決定・主体性の尊重

- ・例えば頼まないのに次のいつかは通訳さんのほうから、次の私が行きますよみたいな、そつと言われるとやっぱり、あじゃお願いしますって言わなきゃいけないようなかたちにもっていかれてしまうっていうか。(F)
- ・1番怖いのはやっぱり病気の時なので…今は家族がいるけれども…私も病院も今大病していないので通訳・介助者さんと行きますが、病院の中での先生との会話をどこまで通訳・介助者さんが入り込むかっていうことなんですね。そんなに私が、例えば、生死にかかわるような病気じゃないもんですから、整形外科なもんですから、入ってきてくださるんですけども。初めのころは、「えっ？」って、私が答えるのに通訳さん答えちゃうんですよ。「私聞こえてるから、私に言って！あなたは外出てて！」って看護師さんにやってもらったこともありますけど。あなたは外にいいよって言うんだけど、大好きでその人入ってきちゃうんですよ。(G)
- ・情報を伝えてもらえずに、勝手に手を入れたり介入したりとか、おせっかいなことを失敗するという経験をしたり、情報を伝えてもらえないまま黙っているということとか、盲ろう者の状況を見守らない時がある時が悪いなと思ったです。(I)
- ・買い物に行く時には、盲ろう者の私が選んだものをやるんですけども、通訳・介助者はそれは古いからダメだよと、新しいの入れなさいとか、黙って交換するというようなことがあって、盲ろう者に判断するというのをさせないまま、盲ろう者が大丈夫だと言っても無理に新しいものと古いもの交換する、勝手にするということがダメだという経験があります。(I)
- ・おせっかいなことをするのではなく、盲ろう者に判断を任せる、盲ろう者を主にする、盲ろう者の気持ちを考えた上で理解しながら上手に通訳・介助をする。(I)
- ・何よりも、盲ろう者の考え、気持ちを大切にしておかしいと思ったら、そういうことを考えているけれども、失礼と言いながらもおかしいと思います、そういう時にも通訳・介助者の上手に使うって普通に付き合っ、盲ろう者に判断を任せるようにしてほしいと思います。(I)
- ・通訳・介助員が自分の思った方向に連れて行こうとする。おかしいですよね？私が考えている道の方向に連れて行ってほしいのに。それをまた、間違えたところに来たら通訳者が言い訳をするんです。(K)

- ・どうしても、通訳・介助員が先に、盲ろう者を引っ張ろうとする人がいる。(L)
- ・例えば、しゃべってるでしょ。そしたらね、通訳の人がなんやかんやよーって口出してくる。この人がそうや言うてる違うよ。言っとくけどね。この人は違うよ。他にいる。とか、何か私が今から何かしようとして頼んで、約束して一緒に行く時に、あれがいいよこれがいいよ…私の趣味と関係なくね。あれすごくおかしくなって、「これ何色？何？どっちの方がいいと思う？」言ったら、「こっちがいい。こっちがかわいい」。あるでしょ？(L)
- ・通訳者のペースで進めるんじゃなくて、こちらのペースに合わせて待つ余裕が持てるとか。押し付けないとか。自分の考えや趣味や好みを押し付けないとか。盲ろう者のわがまま全部聞く必要はないけども、必要な時は聞いてもらえる。盲ろう者に合わせるができる、通訳が。そういう気持ちや時間の余裕かな。(L)
- ・パターンリズムっていうか、もう通訳・介助者が決めて判断してしまって、それに盲ろう者がくっついていくみたいな場面もよく見るから、そういうのは気になるよね。(M)

④受容

- ・ここはこういう風にしたほうがいいですよ。とか、アドバイスをしても「私はちゃんと伝えてます」とか反論してくるような人ね。盲ろう者からのアドバイスを聞かない人。(E)
- ・気持ちがよくなるように接してほしいかな？盲ろう者の方はストレスもあるよね？ストレスを通訳・介助者にぶつけるということもあると思うんです。いつもいつも人と会ってお話ができないから、通訳・介助者を頼んだ時に、人と会った時に、久しぶりに手話とか口話とかでいろいろ声とかでバーッと行ってしまふ。いろいろ話す。その時に、通訳・介助者はいろいろ愚痴とか不満とか文句をいろいろ言われても、聞いて対応を、盲ろう者が気持ちが落ち着くように対応してもらえたらいいのかなあと思う。いろんなことを聞いて、それはダメとか、それはあなたが悪いから我慢しなさい、と言われるとますます嫌になってしまう。わかっていても、やっぱり言いたくなることがあるので、通訳・介助者は、それを言われて聞いて、盲ろう者の気持ちが落ち着くようにお話をして、話して盲ろう者の気持ちが落ち着くように付き合ってもらえたらいいなあと思います。(O)
- ・選ばない、お願いしない通訳者のタイプ、自分の通訳介助する際のスタンスが定まっていて、そのスタンスを変えようとしらない人。(E)

(4) 職業倫理

①職務意識

- ・通訳者がやっぱりお酒を飲むのはダメだと思います。ガイドをしないとイケないのでね。通訳者はお酒を飲むことはやめた方がいいと思います。帰りのガイドでフラフラされると困ります。(K)
- ・きちっと約束を守ってほしいと思います。例えば、時間に遅れてくるということはないように。(K)

②秘密保持

- ・個人情報だから、他の方にはしゃべるのはちょっと、誰さんの介助したんだよとかよくしゃべる人は、平気にしゃべる人もいますよね。これはたまたまと思って、いつも聞いてますけれど。(B)
- ・お話、なりゆきで同じ団体に属している人同士でほかの人に、あの人はここへ行ったのよとかいわれるのはちょっといやだなと…。(F)

(5) 心理的サポート

①孤独感の解消

- ・通訳・介助の方だとだいたいっていうか、おそらく1対1についていて下さって、いつもその人がついていてくれるっていうか、どなたかが自分の責任みたいな感じについていて下さいますね。だからそのいろいろわかるというか、あまり1人ぼっちじゃないっていう感じになる。(H)

②メンタルケア

- ・通訳・介助者さんとの会話ってというのはやっぱり自分の心のケアかな。そういう私、これはやっぱり年齢かもしれないんですけど、ここのケアになってるとやっぱり、自分も障害っていうのを忘れはしないけど、社会の一員だなと感じるんですね。(G)
- ・自分の気持ちの切り替え、障害になって苦しいってものの、自分も通訳・介助者を通して、明るい人たちを通して、自分で自分をクリアできたかなっていうものもあります。(G)
- ・とにかく社会参加ができるんだってことですね。それで、全盲ろうでも、いろんなことができるということで、そのことがわかり、コミュニケーション手段の確立と共に障害の受容に繋がりました。(E)

(6) 近しい関係

①相性

- ・一緒にいてつままない人は、やっぱりお願いしていませんね。相性は大切ですね。(E)
- ・気持ちとしてどうも通じなかったりとか、気持ちも通訳も通じないというのは困ります。(K)

②友人感覚

- ・ホームヘルパーさんの場合はとても規則がキチキチしてて、時間もすごく限られたサービスの時間だからって感じね。でも、通訳・介助の場合は、とつてももし時間が長くかかる時でも、あるいは用事がちやうど重なって何かある時でも、とつてもしかも親身になってくれるって言ったらいいか、何て言っていていいか、長くみんなと。それだから、何かあの友だちプラス通訳っていうか、無しでは通れないって言っていていいか、盲ろう（者向けの通訳・介助）、すごくありがたい。(H)
- ・前に手話通訳を使ってた時と比べてね、これは本当にもう情報、聞こえてることだけを伝えるだけの仕事だった。この通訳派遣、盲ろう者の通訳派遣になった時には、一緒に食事もできる。範囲に入っているでしょ？ただの通訳・介助をする、この「介助」っていう中に、今までの手話通訳とは違うものが入ってるね。どう説明したらいいかな？「友だち」言うたらおかしいねんけども、もう少しリラックスした気分をお願いするというかね、そんな面が手話通訳にはない。「介助」の中にはあると思う。(L)
- ・体が疲れてね、休憩したいとか、どっかでちょっとコーヒーでも飲みたいとかって思う時がありますよね。でも中にはね、自分はおにぎり持っていて、盲ろう者に付き合ってくれますよね。でもおにぎり持ってきて、そして盲ろう者の方に、私は自由に食べてください。または飲み物を持ってきて、自由にねコーヒーでも飲んでくださいという感じの人もいるんですよ。そしたら、やっぱり、こっちは、味がまざくなりますね。(B)
- ・行事に参加する時は、レクリエーションをやりたい時に通訳をする場合は、やっぱり気持ち的に合って、一緒に楽しめるよう人をお願いしたいと思います。(O)

(7) 熱意・意欲

①情報保障の意識

- ・一休さんはお墓があるけど、天皇、皇族の関係だから、お墓は見える人でも見えないわけ。お墓は囲ってあってあるわけや。けれども、見えないけども、そこの歴史的ないろんな字を読んでくれたわけ。もちろん墨で書いてある字、今の人間では。けども、必死になって読んでくれたということがあるわけ。それは1番嬉しかったね。(J)
- ・個人で通訳を依頼している時は、情報はできるだけいっぱいほしいと思う。筆記とか手話とかで通訳をしてもらうので、筆記と手話も情報提供の限界があるということを知っているんですけど、人の集まりがあって、みんなが音声で話している。それを聞いて通訳するのは大変だとは思いますが、やっぱり、全部聞きたい、知りたいと思う。(O)

②盲ろう者との対話意欲

- ・まずは、技術は身につけていなくてもいいから、とにかく盲ろう者にたくさん伝えたい。盲ろう者とたくさん話をしたい、一緒に歩んでいきたいと思ってきている人。直接話したときに気持ちが伝わってくる人を選んでいきます。(E)
- ・気持ちが伝わってくる人。指点字で指先から気持ちが伝わってくる人ですね。さっきも言ったように、まず新人さんにはいきなり通訳をしようと考えなくていいんです。盲ろう者といっぱい話したい、いっぱい伝えたい。それで一緒に歩んでいきたいという気持ちを持ってくれば、それで合格なんです。もちろん指点字のセンスが全く無い人はだめですけどね。表を見ても名前も打てないような人がたまにいて、さすがに、性格とかは良くても、通訳者としてちょっと育成していく望みがないので…はい。(E)
- ・通訳者の方は、技術にこだわる人がいるので、盲ろう者の通訳は技術だけじゃない、気持ちもとても大切だよというような、授業も取り入れて欲しいです。(E)
- ・人間関係をスムーズにしていくというための勉強も大事になると思います。新しい人はまず技術を磨くけれども、何時も聞いているのは、「私は手話は下手ー。私、点字もまだ無理だし、車の免許も持っていないし、通訳・介助活動ができない」という人の声を聞いています。それならば、まず、友の会に入って、行事などに参加して、盲ろう者と会う時間を作ってほしいと思っています。そうでなければ、人間関係を作る方法というのも、そういう勉強もカリキュラムの中にあつたらいいのになぁと思います。(O)
- ・一緒に遊んで会う。そしたら、自然に教えて育てられるんじゃないかと思います。養成講座終わっていきなりっていうのは難しいでしょ？交流が必要です。一緒に会っているいろんなことをボチボチ覚えていただく、そういうことが大切だと思います。(P)

③盲ろう活動への参加意欲

- ・友の会の支援、時々協力していただきたいと思っています。ただ参加するというだけではなく、盲ろう者と共に歩んでほしいという気持ちと一緒に活動していただければ嬉しいです。(I)
- ・盲ろう者の活動で、盲ろう者と一緒に歩いていく、一緒に生きていこうという温かい気持ちを持って一緒に活動して頂きたい。そして、次に、社会でも盲ろう者の情報保障を担っていくよう、共に歩んでくれたらうれしい。(I)

④業務時間帯以外のサポート

- ・会議の時は、通訳・介助として来ます。たくさん人も来ます。盲ろうの役員1人に対して1人ずつ通訳・介助者がついて、通訳をしてもらいます。昼休み、お弁当を食べている時は、通訳・介助者も、通訳・介助者がみんなまとまってお弁当食べる状況多いんです。盲ろう者は、自分でお弁当持ってきた人は、そこに座ったまんま、会議の場所に座ったまんまお弁当を食べる。けれども、隣には誰もいない。通訳・介助者は、離れたところにみんなで固まって、声だけでおしゃべりをしながら食べている。(O)

(8) 既存の制度ではカバーできない支援

①緊急時対応

- ・声が全く出なくなつて。朝かな、通訳・介助者さんにすぐ電話して「風邪で声出ない。病院に行って。主人いない」って言ったら、バイクで走りつけてくれて、病院に行ってもらって。風邪薬ももらったけど、そういう形で出先へ行ったんですけど、泊まらないで帰ったんですけども、でもそういう緊急の時にでも電話して来ていただいたから、助かりましたね。(G)

②健康管理

- ・糖質や炭水化物とかたんぱく質とか脂質とか、糖質を55%ぐらいに収めんと、いくら僕が薬飲んで薬餌療法やっても食事療法してるつもりでも運動療法しても、血糖値やらヘモグロビンは上がってまうんや。そこまでやってくれる人今いないでなあ。(J)

③余暇活動支援

- ・訪問して欲しいです。私、見えないので、例えば縫物なんかお手伝いして欲しい。あと買い物にも、いろいろ触ってやってみたいし。私そういうもの好きなんです。買い物とか、家に来て一緒に、縫物とかしたい。あと、それと点字の勉強関係。英語、アルファベットの勉強、それも通いたいという気持ちもあるし、そういうのにも利用したい。(A)

④ホームヘルプ

- ・通訳・介助者も身体介護をはじめとしたホームヘルパーとしても活動できるようにしてほしいです。(E)

⑤レスパイト

- ・やっぱり私も主人にも楽させてあげたいっていう気持ちも持ちながら入っていったので、本当に通訳・介助者の方にはお世話になっているし、コミュニケーションも取りやすくなってますし。以前は主人に送っていろいろ言ったけど、今はもういいよって、駅までバスで行った方が楽しいからっていうようにも本当になりましたし。(G)

⑥人間関係づくり

- ・友の会以外の団体の行事に参加する時は、もし通訳・介助者と一緒に行ってもらう時は、いろんな情報ももらえるし、私は話すのが苦手。自分から進んで声をかけるというのは苦手なんですけれども、通訳・介助者の人が代わりに声をかけてもらうっていうこともできるので、ちょっと得かなと思うこともあります。(O)

第4部 提言カリキュラム

調査を踏まえ「盲ろう者向け通訳・介助員養成カリキュラム」を別表の通り提言する。

表 4-1-1 盲ろう者向け通訳・介助員養成カリキュラム

盲ろう者向け通訳・介助員養成カリキュラム

【必修科目(42時間)】

養成目標	盲ろう者の生活及び支援のあり方についての理解と認識を深めるとともに、盲ろう者との日常的なコミュニケーションや盲ろう者への通訳及び移動介助を行うに際し、最低限必要な知識及び技術を習得する。
到達目標	盲ろう者と1対1での外出(買い物・食事などに伴う外出)などの日常生活上の場面において、必要な通訳・介助を行うことができる。

【選択科目(42時間)】

養成目標	必修科目の研修修了に加えて、盲ろう者向け通訳・介助員の役割・責務などについて理解と知識を深めるとともに、多様なニーズや場面に応じた通訳及び移動介助を行うに際し、必要な知識及び技術を習得する。
到達目標	電車、バスなどの公共交通機関の利用を伴う外出や複数の者が参加する講演会、会議などの場面において、必要な通訳・介助を行うことができる。

【必修科目(42時間)】

形態	教科名	時間数	目的	内容	特記事項(方法・講師など)
講義	盲ろう者概論	2	盲ろう者の障害の状態や程度、コミュニケーション方法の種類、生活状況等を知り、盲ろう者の現状を理解する。	盲ろう者の人数(全国・各地域) 盲ろうの状態・程度 盲ろうになるまでの経緯 コミュニケーション方法 盲ろう者の地域生活の状況(住居・日中活動・福祉制度)	視覚教材などを用い、盲ろう者の全般的な状況について理解できるようにする。
講義 実習	盲ろう疑似体験	2	視覚と聴覚の両方を遮断して行動する体験を通して、その状態・心理面の共感的理解を図るとともに、盲ろう者の支援ニーズや接する際のマナーを理解する。	基本的配慮(名前を言う、放置しない、話にあいづちを打つなど)を学ぶための疑似体験	盲ろう疑似体験セット(※)を用いて盲ろう状態を体験するとともに、受講者が基本的配慮を理解できるように討議や助言などの時間を設ける。
講義	視覚・聴覚障害の理解	2	視覚障害や聴覚障害の状態・程度による見え方、聞こえ方の違いを理解し、それぞれに応じた支援の基本姿勢を理解する。	盲ろう障害の発症原因 視覚障害・聴覚障害の状態・程度 見え方・聞こえ方に応じた配慮	視覚障害疑似体験セット(シミュレーションゴーグル・レンズセット(※))、視覚教材などを用い、障害の状態と支援の効果を理解できるようにする。
講義	盲ろう者の日常生活とニーズ	2	盲ろう者の日常生活における課題と、その支援方法を理解する。	盲ろう者の生育歴・障害歴 日常生活における困難 必要としている支援	盲ろう者による講演を中心に組み立てる。
講義	★盲ろう者のコミュニケーション技法と留意点	8	盲ろう者とコミュニケーションを取る際の留意点について、コミュニケーション方法(触手話・弱視手話、指点字・プリスタ、手書き文字、筆記、音声など)ごとに理解する。	各種コミュニケーションの方法(触手話・弱視手話、指点字・プリスタ、手書き文字、筆記、音声など)と留意点	地域の盲ろう者のニーズやコミュニケーション方法を踏まえ、地域の実情に合わせたコミュニケーション方法の選択や時間配分を行う。
実習	★盲ろうコミュニケーション実習	14	盲ろう者とのコミュニケーションを方法(触手話・弱視手話、指点字・プリスタ、手書き文字、筆記、音声など)ごとに、最低限必要な技術を習得する。	各種コミュニケーションの方法(触手話・弱視手話、指点字・プリスタ、手書き文字、筆記、音声など)の体験実習	講義「盲ろう者のコミュニケーション技法と留意点」の特記事項を踏まえ、盲ろう者とのコミュニケーション体験を中心に組み立てる。
講義	通訳・介助員の心構えと倫理	2	盲ろう者向け通訳・介助員としての盲ろう者への関わり方を理解する。	心構えと倫理(自己決定の尊重、秘密保持など) 対人コミュニケーションの基礎技法(受容・傾聴・共感など)	
講義	盲ろう通訳技術の基本	2	盲ろう者が主体的に自己決定できるようにするため、情報伝達の技術を理解する。	盲ろう者への情報伝達の技術(通訳内容、状況説明、補足説明、事後説明、環境調整)	
実習	◆移動介助実習Ⅰ	2	基本的な移動介助を安心・安全に行うことができる技術を習得する。	基本姿勢 場面別基本移動介助技術(狭所・段差)	盲ろう者に対する移動介助の実習を行う。人数的に困難な場合、ロールプレイにより実習を行う。
実習	◆通訳・介助実習Ⅰ	4	基本的な通訳・介助の技術を習得する。	移動中の情報提供の方法も含む場面別基本通訳・介助技術を想定した実習(第三者が介在しない買い物・食事など)	盲ろう者に対する通訳・介助の実習を行う。人数的に困難な場合、ロールプレイにより実習を行う。
講義	通訳・介助員派遣事業と通訳・介助員の業務	2	盲ろう者向け通訳・介助員派遣事業の運用の仕組みやルールについて理解する。	派遣依頼の流れ、報告の方法、トラブル発生時の対応	実施主体の自治体職員、あるいは派遣事業コーディネーターなどの講演を中心に組み立てる。
		42			

【選択科目(42時間)】

形態	教科名	時間数	目的	内容	特記事項(方法・講師など)
講義	盲ろう児の教育と支援	2	盲ろう児の教育における課題とその支援方法について理解する。	盲ろう児の現状 盲ろう児の教育方法 盲ろう児に対する通訳・介助方法	特別支援学校教員、盲ろう児の親、支援に関わっている盲ろう者向け通訳・介助員などの講演を中心に組み立てる。
講義	高齢盲ろう者の生活と支援	2	高齢の盲ろう者の生活における課題と、その支援方法について理解する。	高齢盲ろう者の現状 高齢盲ろう者に対する通訳・介助支援の方法	介護福祉士、地域包括支援センター職員、支援に関わっている盲ろう者向け通訳・介助員などの講演を中心に組み立てる。
講義	他の障害を併せ持つ盲ろう者の生活と支援	2	視覚と聴覚以外の障害(運動機能障害、精神障害など)を併せ持つ盲ろう者の生活における課題と、その支援方法について理解する。	重複盲ろう者の現状 重複盲ろう者に対する通訳・介助支援の方法	理学療法士、精神保健福祉士などの感覚障害以外に関わる専門職の講演を中心に組み立てる。
講義	盲ろう者福祉制度概論	2	盲ろう者が利用する障害者福祉制度や各種事業、地域の社会資源の状況等を理解する。	障害者総合支援法の仕組み 通訳・介助員派遣事業の実情 盲ろう者団体も含めた地域の社会資源の状況	実施主体の自治体職員、あるいは受託団体役員、派遣事業コーディネーターなどの講演を中心に組み立てる。
講義 実習	盲ろう通訳技術の実際	2	盲ろう者が主体的に自己決定できるようにするための情報伝達の技術を体験的に理解する。	盲ろう者への情報伝達の技術(通訳内容、状況説明、補足説明、事後説明、環境調整)の実習	ロールプレイなどの体験的手法を用いて実施する。
講義 演習	通訳・介助員のあり方	4	盲ろう者向け通訳・介助員として必要な支援技術を習得するとともに、社会福祉従事者としての盲ろう者向け通訳・介助員の役割を理解する。	盲ろう者の心理や通訳場面に応じた盲ろう者向け通訳・介助員の責務	事例検討の手法を用いて実施する。
講義	★盲ろう者の通訳技法と留意点	6	盲ろう者へ通訳をする際の留意点について、コミュニケーション方法(触手話・弱視手話、指点字・プリスタ、手書き文字、筆記、音声など)ごとに理解する。	各種コミュニケーション別の通訳方法(触手話・弱視手話、指点字・プリスタ、手書き文字、筆記、音声など)と留意点	地域の実情に合わせて、コミュニケーション方法の選択や時間配分を行う。
実習	★盲ろう通訳実習	8	盲ろう者への通訳を方法(触手話・弱視手話、指点字・プリスタ、手書き文字、筆記、音声など)ごとに、必要な技術を習得する。	各種コミュニケーション方法ごとの通訳(触手話・弱視手話、指点字・プリスタ、手書き文字、筆記、音声など)の体験実習	盲ろう者への通訳体験を中心に組み立てる。 地域の実情に合わせて、コミュニケーション方法の選択や時間配分を行う。
実習	◆移動介助実習Ⅱ	8	応用的な移動介助技術を習得する。	場面別応用移動介助技術(エスカレーター、電車・バスなどの公共交通機関の利用)を想定した実習	盲ろう者に対する移動介助の実習を行う。人数的に困難な場合、ロールプレイにより実習を行う。
実習	◆通訳・介助実習Ⅱ	6	応用的な通訳・介助技術を習得する。	場面別応用通訳・介助技術(第三者が介在する買い物、申請、面接、会議などの場面)を想定した実習	盲ろう者に対する通訳・介助の実習を行う。人数的に困難な場合、ロールプレイにより実習を行う。
		42			

※別紙『盲ろう者向け通訳・介助員養成研修会開催に当たっての留意事項』の「3. 研修会で必要な機材について」参照。

(別紙)

盲ろう者向け通訳・介助員養成研修会開催に当たっての留意事項

受講者の募集の要件、内容等についてのご検討に当たり、盲ろう者向け通訳・介助員養成カリキュラム(以下「本カリキュラム」)検討の際に懸案とされた事項を基に、若干の留意事項を記載するので参考とされたい。

盲ろう者向け通訳・介助員養成に当たっては、必修科目42時間、選択科目42時間、合計84時間程度の実施が相当と提言する。

しかしながら、各都道府県に対して実施した養成研修会の開催状況の調査結果によると、平均30時間程度実施しているところが多く、また、実施側の印象として、30時間程度では、通訳・介助員として活動するには不十分なカリキュラムになっているとの結果を得たこと等を考慮し、最低でも必修科目42時間程度を実施することが実情に即したものだとする。

なお、あくまでも提示した本カリキュラムは、盲ろう者向け通訳・介助員を養成するに当たって、1年間で実施する時間数、また、必要と考えられる科目、内容を示したものであり、これを基に地域の実情に合った指導内容を編成することが望ましい。

特に、盲ろう者のコミュニケーション方法は、多種多様であり、これらすべてのコミュニケーション方法を養成研修のみで習得するのは、現実的に不可能であることは言うまでもなく、また、盲ろう者への通訳・介助は、個々の盲ろう者の障害の程度、障害の受障時期、成育歴等によって、支援ニーズが異なってくることから、養成研修会だけでは、これらを全網羅的に習得することは困難であるという前提に立つてのことである。

よって、次のような点に留意して、指導内容の編成、受講者の募集、既存の講習会等の活用など進められることを提案する。

1. 指導内容を編成する際の留意事項

- ・盲ろう者向け通訳・介助員養成研修においては、必修科目の42時間と、選択科目の42時間、総計84時間実施することを推奨する。
- ・しかしながら前述したように、実情に即した対応としては、盲ろう者とコミュニケーションが取れる、必要最低限の通訳技能を身につける、移動介助ができる(概ね、各地域で実施されている盲ろう者友の会等の交流会での通訳・介助ができる)ようになることを目標として、必修科目42時間の実施を必須とする。
- ・具体的には、必修科目42時間を修了した者については、最低限、持ち合わせているコミュニケーション方法(手話、要約筆記、点字等。これら特別な講習が必要な技術を持ち合わせていない者は、手書き文字や音声)を使用し、盲ろう者と日常的なコミュニケーションや通訳ができるようになることを目標に指導内容を編成されたい。
- ・可能であるならば、必修科目42時間に加え、選択科目の中から、地域の実情に応じた科目を組み入れることで、時間数を増やした上での実施が推奨される。
- ・教科名の先頭に★、◆を付したものについては、次の点に留意されたい。

(★を付した教科について)

必修科目の「★盲ろう者のコミュニケーション技法と留意点」「★盲ろうコミュニケーション実習」、選

択科目の「★盲ろう者の通訳技法と留意点」「★盲ろう通訳実習」については、以下の点に留意するとともに、地域の実情に合わせて、コミュニケーション方法の選択、時間配分等の調整を行うものとする。

①コミュニケーション方法は多種多様に渡ることから、地域のニーズを踏まえた上でカリキュラムを編成する。(例：派遣依頼件数の多いコミュニケーション方法に重点的に時間を配分する)

②一つのコミュニケーション方法(例：触手話・指点字等など)について、例えば講義1時間、実習2時間といった編成が通例であるが、講義・実習の両方を合わせて1コマで実施することも有効である。

③しかしながら、多岐に渡るコミュニケーション方法について、コミュニケーション実習を行いながら理解することが望ましいが、時間数の制約等で多種のコミュニケーションを取り上げることによって、通訳・介助員として活動する最低限のコミュニケーション手段すら身につかない場合などは、すべてを実習によるものとせず、概論の時間などで紹介するなどの方法を取る。

④コミュニケーション方法の選択・時間配分等の調整によって、時間を短縮できる場合は、選択科目の中から、地域の実情に応じた科目を必修科目42時間に組み入れることも検討されたい。

(◆を付した教科について)

必修、選択科目に共通する「◆移動介助実習」「◆通訳・介助実習」は、通訳・介助の実践を踏まえたものであり、相互に密接に関連することから、それぞれの時間配分については、地域の実情に応じて検討されたいが、両科目を組み入れることを推奨する。

・また、派遣事業登録盲ろう者との交流を図るプログラムの実施を積極的に行うこと(指導内容の一部として、友の会主催の定例の交流会への出席を盛り込むなど、実際に盲ろう者と触れ合う機会を取り入れること)も検討されたい。

・講師については、特記事項にない限り、盲ろう者や通訳・介助員、受託団体職員などが、内容や地域の実情などを踏まえて担当する。講師の選定にあたっては、国立障害者リハビリテーションセンター学院主催「盲ろう者向け通訳・介助員指導者養成研修会」(旧「盲ろう者通訳ガイドヘルパー指導者研修会」)、もしくは、社会福祉法人全国盲ろう者協会主催「盲ろう者向け通訳・介助員養成のためのモデル研修会」などの修了者を活用することも検討されたい。

2. 受講者募集、および既存の講習会等の活用について

・受講者募集に当たっては、その地域での通訳・介助員の充足度によるが、一般的にはその数は不足していることを考慮すると、特段の条件(例：手話通訳、要約筆記、点訳等の経験、ガイドヘルパー有資格者など)を設けずに、広く募集することを推奨する。

・その場合、既存の手話講習会、要約筆記講習会、点訳講習会、ガイドヘルパー養成研修会等を並行して(またはその後)活用することも望ましい。

・一方で、手話の習得には相当の時間を要すること、手話通訳ができるようになるには更に時間を要する(厚労省が通知している養成カリキュラムでは、手話奉仕員の養成に80時間、手話通訳者の養成に90時間となっている)ことから、その各修了者を対象に募集することは、手話の技能はもちろん、手話を母語とする盲ろう者理解の面でも有効であると考え。また、要約筆記奉仕員、要約筆記者の各講習会修了者、点訳経験者などにも、対象者の理解においては同様のことがいえる。

そのような場合は、受講者の有する知識・経験等に応じて、手話コース、点字コースに分けるなどの方策も有効であると考え。また、年ごとに内容を変えて(例：手話コースと点字コースを隔年で設けるなど)実施すること等も検討に値すると考える。

3. 研修会で必要な機材について

用具・器具		目的
シミュレーションゴーグル・レンズセット		屈折異常、白濁、視野狭窄などを人工的に再現する視覚障害体験用シミュレーションレンズを、専用のゴーグルに取り付けて装着する
擬似体験セット	アイマスク	見えない状態にするために装着する
	ティッシュペーパー	衛生を保つため、アイマスクの下に挟む
	携帯型音楽プレイヤー (MP3プレイヤー)	聞こえない状態にするため、ホワイトノイズ音を発生させる
	ヘッドホン	聞こえない状態にするため、ヘッドホンを通してノイズ音を聞く
	耳栓	聞こえない状態にするため、また、聴覚をノイズ音から保護するために装着する

4. 養成研修会受講者向けテキストについて

・現時点で入手可能な養成研修受講者向けのテキストとしては、以下が挙げられる。

『盲ろう者への通訳・介助－「光」と「音」を伝えるための方法と技術』

全国盲ろう者協会編著 [平成20年(2008) 読書工房]

『指点字ガイドブック～盲ろう者とところをつなぐ』

東京盲ろう者友の会編著 [平成24年(2012) 読書工房]

『盲ろう者の移動介助－盲ろう者にとっての安心・安全な移動介助方法とは』

前田晃秀著 [平成20年(2008) 東京盲ろう者友の会]

『知ってください 盲ろうについて』

東京盲ろう者友の会編 [平成22年(2010)]

第5部 付録

・調査A 盲ろう者向け通訳・介助員養成事業に関する調査 調査票

・調査B 盲ろう者向け通訳・介助員の状況に関する調査 調査票

【調査 A】

盲ろう者向け 通訳・介助員養成事業に関する調査

【ご協力をお願い】

この調査は、厚生労働省の「平成 24 年度障害者総合福祉推進事業」として社会福祉法人全国盲ろう者協会が実施するものです。

本調査は、多様で専門的な対応が求められる盲ろう者向け通訳・介助員の今後の養成のあり方やカリキュラムを検討するため、都道府県を中心とする全養成事業実施自治体における通訳・介助員養成の現状や課題、新たに求められる人材養成への考え方などを把握することを目的としています。

お忙しいところお手数を重ねたいと思いますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

社会福祉法人全国盲ろう者協会
理事長 阪田雅裕

◆ご記入にあたってのお願い◆

1 記入の方法などについて

- ① 回答は全てこの調査用紙に記入してください。
- ② 回答は番号を選択方式と、具体的に記入または記述するものがあります。選択方式の場合は該当する数字やカタカナに○をつけてください。記入または記述の場合は指定された欄に書きこんでください。
- ③ 自治体の盲ろう者向け通訳・介助員養成事業のご担当者にご記入ください。事業を委託して詳細がわからない場合は、お手数をお掛けしますが、**貴自治体の盲ろう者向け通訳・介助員派遣事業受託団体等に当該情報を照会したうえでご記入ください。**
- ④ 本調査は、受講後、通訳・介助員派遣事業で活動することを目標にした「養成講習上のみについての調査」です。登録者向けの「現任研修」などは含みません。

2 返送について

- ① ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、**平成25年1月18日(金)**までにご返送ください。
- ② 通訳・介助員養成事業の要綱、カリキュラム、シラバス、受託団体や講師作成のテキスト等の資料についても、返信用封筒に同封してお送りください（切手が不足する場合は送付しますので、下記までご連絡ください）。なお、資料の電子データ版がある場合は、電子データを当協会のメールアドレスまでお送りください。

3 調査に対する問い合わせ先

社会福祉法人全国盲ろう者協会 事務局 橋岡・小林・大久保
〒162-0042 東京都新宿区早稲田町67番地 早稲田クロアバービル3階
Tel : 03-5287-1140 Fax : 03-5287-1141
E-mail : info@dba.or.jp

I 基礎的事項

1. 自治体名・担当部署名
都道府県・市区町村名 ()
担当部署名 ()
2. 本調査の担当者・連絡先
担当者名 ()
電話 ()
FAX ()
メールアドレス ()
3. 通訳・介助員の養成目標を定めていますか。
 1. 定めている
・養成目標人数はいつまでに、何名ですか。〔数字を記入〕
()年(西暦)までに、約()名
単年度の目標の場合、年間()名
・その目標値はどこかに明記されていますか。
ア 明記されている → 明記している箇所：()
イ 明記されていない
 2. 定めていない
4. 平成23年度に通訳・介助員養成講習会を実施しましたか。
 1. 実施した
・養成講習会の開始年度はいつですか?〔数字を記入〕平成()年度
・これまでの修了者はおよそ何名ですか?〔数字を記入〕
約()名(平成23年度までの累計)
→上記にご回答のうえ、「II 通訳・介助員の養成状況」以降に進んでください。
 2. 実施していない
・実施していない理由は何ですか。〔あてはまるカタカナすべてに○〕
ア 講師の不在
イ 予算の不足
ウ その他()
→上記にご回答のうえ、「III- (4) 養成にあたって必要だと考える事項(自由記述)」以降に進んでください。

II 通訳・介助員の養成状況

1. 平成23年度通訳・介助員養成講習会の実施状況について

(1) どのような実施体制をとっていますか。

- 1 直轄
- 2 団体委託

・どこに委託していますか。[あてはまるカタカナ1つに○]
 ア 盲ろう者団体 イ 聴覚障害者団体 ウ 視覚障害者団体
 エ 身体障害者団体 オ その他()

(2) 養成講習会に関わる自治体の予算額をご記入ください。[数字を記入]

①事業費	②事務費	③総予算額(①+②)
円	円	円

2. 平成23年度通訳・介助員養成講習会の運営状況について

(1) どのような方法で広報しましたか。[あてはまる番号すべてに○]

- 1 自治体広報紙
- 2 自治体ホームページ
- 3 受託団体会報誌
- 4 受託団体ホームページ
- 5 関係機関・団体広報紙
- 6 関係機関・団体ホームページ
- 7 チラシ
- 8 ポスター
- 9 ダイレクトメール
- 10 手話講習会での案内
- 11 点字講習会での案内
- 12 その他()

(2) どのような方法で応募を受け付けましたか。[あてはまる番号すべてに○]

- 1 郵送
- 2 FAX
- 3 電子メール
- 4 電話
- 5 来所
- 6 その他()

(3) 受講対象者の要件を設けていましたか。

- 1 設けている
- 2 設けていない

・設けている要件は何ですか。[あてはまるカタカナすべてに○]

- ア 年齢 イ 在住 ウ 在勤・在学 エ 手話経験年数
 オ 点字経験年数 カ 手話技能 キ 点字技能
 ク その他()

(4) 受講料はいくらでしたか。[数字を記入]

() 円 [テキスト代は含まない]

(5) 開催日はいつでしたか。[あてはまる番号すべてに○]

- 1 平日昼間
- 2 平日夜間
- 3 土日・休日昼間
- 4 土日・休日夜間

(6) 講師の人数をご記入ください。[数字を記入。延べ人数ではなく実人数で記入]

①講師の人数	②盲ろう講師の人数	③「通訳・ガイドヘルパー指導者研修会」修了者(国が主催者)ハビリテーションセンター(学院主催)	④「通訳・介助員養成のためのセブアル研修会」修了者(全国盲ろう者協会主催)(平成22年度までの養成研修会も含まれます)
名	①のうち	名	①のうち
名	①のうち	名	①のうち

(7) 平成23年度の通訳・介助員養成講習会の状況をご記入ください。[数字を記入]

①定員	②応募者数	③受講者数	④修了者数	⑤登録者数
名	名	名	名	名

(8) 区分(例：手話コース・点字コース、基礎・応用など)はありますか。

- 1 ある

・それぞれの講習の名称と時間数、回数、日数を記入してください。

①名称	②総時間数	③総回数	④総日数
	時間	回	日
	時間	回	日

- 2 ない

・講習の時間数、回数、日数を記入してください。

①総時間数	②総回数	③総日数
時間	回	日

(9) 修了にあたってどのような条件を定めていますか？[あてはまる番号すべてに○]

- 1 出席回数 → 具体的な条件 ()
- 2 受講態度
- 3 修了試験の合格
- 4 その他 ()
- 5 特に条件を定めていない

(10) 通訳・介助員に登録するための登録試験を実施していますか？

- 1 実施している
- 2 実施していない

(3) 通訳・介助員の養成にあたって、現在のカリキュラムに加えて必要だと考えた内容を自由に記入してください。

(自由記載)

IV 通訳・介助員の派遣の状況

1. 言わう者の状況について (平成24年10月末日現在)でご回答ください

- (1) 貴自治体(都道府県)で言わう者(視覚と聴覚の両方の身体障害者手帳を併せもつ人)は何名ですか。政令指定都市や中核市も含んだ人数をご記入ください。[数字を記入] ()名
- (2) 貴自治体の言わう者向け通訳・介助員派遣事業の登録言わう者は何名ですか。[数字を記入] ()名
- (3) 派遣事業登録言わう者が通訳を受けるときの方法のうち、最も使用する方法について、それぞれのコミュニケーションごとに人数をご記入ください。[数字を記入]

	人数
音声(聴覚)	名
弱視手話(接近手話)	名
触手話(触聴手話)	名
日本語式指文字	名
ローマ字式指文字	名
手書き文字	名
筆記(筆談)	名
筆記(パソコン)	名
点字(ブリスタ)	名
指点字	名
その他	名

2. 通訳・介助員の状況について

- (1) 平成24年10月末日現在、貴自治体の言わう者向け通訳・介助員派遣事業の登録通訳・介助員は何名ですか。[数字を記入] ()名
- (2) (1)のうち、平成24年4月1日から10月末日に移働した実績のある通訳・介助員は何名ですか。[数字を記入] ()名
- (3) 現在のコミュニケーション方法ごとの通訳・介助員の充足度をご記入ください。
[該当する□に、チェック(☑または■)]

	足りていない	どちらかといえない	どちらかというくらい	足りている
音声(聴覚)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
弱視手話(接近手話)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
触手話(触聴手話)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
日本語式指文字	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ローマ字式指文字	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
手書き文字	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
筆記(筆談)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
筆記(パソコン)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
点字(ブリスタ)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
指点字	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

調査は以上です。ご協力ありがとうございました。

(3) 通訳・介助員の養成にあたって、現在のカリキュラムに加えて必要だと考えた内容を自由に記入してください。

(自由記載)

(4) 通訳・介助員の養成にあたって、必要だと考える事項(カリキュラム以外)を自由に記入してください。

(自由記載)

問7 あなたは通訳・介助以外の福祉関係の業務について、自治体や事業所などに登録していますか。

- 1 登録している
- ・登録の種類をお答えください。[あてはまるカタカナすべてに○]
 - ア 手話通訳者 (都道府県) イ 手話通訳者 (市区町村)
 - ウ 要約筆記者 エ ホームヘルパー
 - オ ガイドヘルパー (移動支援 同行支援)
 - カ その他 ()
- 2 登録していない

問8 あなたは複数の自治体に通訳・介助員登録をしていますか。

- 1 1つの自治体のみ
- ・登録している自治体と登録した年(西暦)をお答えください。
 - 自治体名 () 年 西暦 () 年
- 2 2つ以上の自治体
- ・登録している自治体は何箇所ですか。 () 箇所
 - ・最も通訳・介助活動をしている自治体と登録した年(西暦)をお答えください。
 - 自治体名 () 年 西暦 () 年

問9 あなたは社会福祉法人全国盲ろう者協会や通訳・介助員(訪問相談員)登録をしていますか。

- 1 登録している
- ・登録した年(西暦)をお答えください。
 - 西暦 () 年
- 2 登録していない

問10 あなたは手話でのコミュニケーション経験はありますか。

- 1 ある
- ・経験年数をお答えください。 年数 () 年
 - ・どの程度、手話でのコミュニケーションが可能ですか。[あてはまるカタカナ1つに○]
 - ア 挨拶程度可能 イ 日常会話程度可能 ウ 通訳可能
- 2 ない

問11 あなたは点訳(点字翻訳)の経験はありますか。

- 1 ある
- ・経験年数をお答えください。 年数 () 年
 - ・どの程度、点訳(点字翻訳)が可能ですか。[あてはまるカタカナ1つに○]
 - ア 単語程度可能 イ 短文程度可能 ウ 長文点訳可能
- 2 ない

II 通訳・介助に関する学習状況について

問12 あなたは自治体で実施されている通訳・介助員養成講習会を受講しましたか。(登録者向けの「現任研修」などは含まれません)

- 1 受講している
- ・受講した自治体と受講した年(西暦)、受講時間数をお答えください。
 - ※受講時間数は、全カリキュラムのうち出席したおおよその時間数を入力
 - 自治体名 () 年 西暦 () 年 受講時間 () 時間
 - 自治体名 () 年 西暦 () 年 受講時間 () 時間
 - 自治体名 () 年 西暦 () 年 受講時間 () 時間
- 2 受講していない

問13 あなたは以下にあげる講習会を受講しましたか。

- 1 全国盲ろう者協会主催「盲ろう者向け通訳・介助員養成研修会」(1996～2010年)、もしくは「盲ろう者向け通訳・介助員養成のためのモデル研修会」(2011年～)
- 2 国立障害者リハビリテーションセンター主催「通訳・ガイドヘルパー指導者研修会」
- ・受講した年(西暦)をお答えください。 西暦 () 年
 - ・受講した年(西暦)をお答えください。 西暦 () 年
- 3 いずれも受講していない

問14 あなたは盲ろう者のコミュニケーション方法を、どの程度身につけていますか。それぞれの方法について、あてはまる番号1つに○をしてください。

	経験がない	ほとんどできない	一対一の対話はできる	比較的やさしい内容が通訳できる	比較的難しい内容、通訳ができる
音声(聴覚)	1	2	3	4	5
視覚手話(接近手話)	1	2	3	4	5
触手話(触読手話)	1	2	3	4	5
日本語式指文字	1	2	3	4	5
ローマ字式指文字	1	2	3	4	5
手書き文字(てのひら書き)	1	2	3	4	5
筆記(筆談)	1	2	3	4	5
筆記(パソコン)	1	2	3	4	5
点字(ブリスタ)	1	2	3	4	5
指点字	1	2	3	4	5

問 15 (問 12 で「受講している」に○を付けた方にお尋ねします) あなたが身につけている (少ないとも 1 対 1 の対話ができる) 方法のうち、通訳・介助員養成講習会を受講することによって身に付けたコミュニケーション方法をお答えください。[あてはまる番号すべてに○]

1 音声 (聴覚) 2 弱視手話 (接近手話) 3 触手話 (触読手話)
 4 日本語式指文字 5 ローマ字式指文字 6 手書き文字 (てのひら書き)
 7 筆記 (筆談) 8 筆記 (パソコン) 9 点字 (ブリスタ)
 10 指点字 11 特になし

問 16 (問 12 で「受講している」に○を付けた方にお尋ねします) 通訳・介助員養成講習会は、通訳・介助活動をすることで、役に立ったと思いますか。[あてはまる番号 1 つに○]

1 とても役に立つ 2 まあまあ役に立つ 3 どちらともいえない
 3 あまり役に立たない 4 まったく役に立たない

問 17 通訳・介助員養成講習会について、もっと講習が必要だと思う内容やあまり講習が必要でないと思う内容があれば、自由にご記入ください。

III 通訳・介助に関する活動状況について

問 18 あなたはこれまで通訳・介助活動をしたことがありますか。

1 活動したことがある
 ・活動が始めた年 (西暦) をお答えください。 [あてはまる番号 1 つに○] 年
 西暦 ()

2 活動したことがない
 ・活動しない理由は何ですか。 [あてはまるカタカナすべてに○]
 ア 通訳・介助の依頼がないから イ 時間的な余裕がないから
 ウ 体力に自信がないから エ 技術に自信がないから
 オ 登録したばかりだから
 カ その他 ()
 →活動したことがない方 (問 18 で 2 に○を付けた方) は、上記にご回答のうえ、
 問 24 以降に進んでください。

問 19 あなたは過去 1 年間 (2012 年 1 月 1 日～2012 年 12 月 31 日) に、登録をしている自治体で通訳・介助活動をしましたか。

1 活動した
 ・過去 1 年間の活動日数をお答えください。 約 () 日
 ・担当した旨のほうの人数をお答えください。
 ※AさんとBさんの通訳・介助を年間 15 回担当した場合、「15人」ではなく、「2人」として数える。
 A () 人
 B () 人

2 活動していない
 ・活動していない理由は何ですか。 [あてはまるカタカナすべてに○]
 ア 通訳・介助の依頼がないから イ 時間的な余裕がないから
 ウ 体力に自信がないから エ 技術に自信がないから
 オ その他 ()
 →過去 1 年間活動していない方 (問 19 で 2 に○を付けた方) は、上記にご回答の
 うえ、問 24 以降に進んでください。

問 20 過去 1 年間 (2012 年 1 月 1 日～2012 年 12 月 31 日) の通訳・介助活動のなかで、あなたが担当したことがある旨のほうの年齢層をお答えください。 [あてはまる番号すべてに○]

- 1 乳幼児 (7 歳未満) 2 学齢期の児童・生徒 (7 歳以上 18 歳未満)
 3 青年層 (18 歳以上 40 歳未満) 4 中年層 (40 歳以上 65 歳未満)
 5 高齢者層 (65 歳以上)

問 21 問 20 でお答えになった年齢層のうち、過去 1 年間の通訳・介助活動のなかで、あなたが最も担当した日数の多かった旨のほうの年齢層をお答えください。 [あてはまる番号 1 つに○]

- 1 乳幼児 (7 歳未満) 2 学齢期の児童・生徒 (7 歳以上 18 歳未満)
 3 青年層 (18 歳以上 40 歳未満) 4 中年層 (40 歳以上 65 歳未満)
 5 高齢者層 (65 歳以上)

問 22 過去 1 年間 (2012 年 1 月 1 日～2012 年 12 月 31 日) の通訳・介助活動のなかで、あなたが担当したことがある旨のほうの受信コミュニケーション方法をお答えください。 [あてはまる番号すべてに○]

- 1 音声 (聴覚) 2 弱視手話 (接近手話) 3 触手話 (触読手話)
 4 日本語式指文字 5 ローマ字式指文字 6 手書き文字 (てのひら書き)
 7 筆記 (筆談) 8 筆記 (パソコン) 9 点字 (ブリスタ)
 10 指点字 11 その他 ()

問 23 問 22 でお答えになったコミュニケーション方法のうち、過去 1 年間の通訳・介助活動のなかで、あなたが最も担当した日数の多かった旨のほうの受信コミュニケーション方法をお答えください。 [あてはまる番号 1 つに○]

- 1 音声 (聴覚) 2 弱視手話 (接近手話) 3 触手話 (触読手話)
 4 日本語式指文字 5 ローマ字式指文字 6 手書き文字 (てのひら書き)
 7 筆記 (筆談) 8 筆記 (パソコン) 9 点字 (ブリスタ)
 10 指点字 11 その他 ()

IV 通訳・介助に関する意識について

問 24 次にあげた文章は、複数の通訳・介助員が「盲ろう者との関わり方」や「通訳・介助活動に対する考え」について述べた言葉です。それぞれについて、あなたの通訳・介助員としての関わり方や考えと近いかどうか、「まったく当てはまらない」「1」「非常に当てはまる」を“7”として、7段階でお答えください。深く考えず直感で、それぞれについて番号1つに○をしてください。

	まったく当てはまらない	1	2	3	4	5	6	7	どちらともいえない	非常に当てはまる
1	盲ろう者から無理を言われても、できる限り、それを実現できるようにする	1	2	3	4	5	6	7		
2	盲ろう者の判断が間違っていると思ったときは、それを指摘する	1	2	3	4	5	6	7		
3	自分のプライベートで起こった出来事を盲ろう者に話す	1	2	3	4	5	6	7		
4	盲ろう者に楽しんでもらえるように接する	1	2	3	4	5	6	7		
5	盲ろう者が悩んでいるときは親身に相談にのる	1	2	3	4	5	6	7		
6	盲ろう者本人のことは、本人の判断が最も尊重されるべきである	1	2	3	4	5	6	7		
7	盲ろう者に困ったことがあれば、すぐにでも駆けつけたいと思う	1	2	3	4	5	6	7		
8	盲ろう者と対等に意見が言い合える関係が望ましい	1	2	3	4	5	6	7		
9	盲ろう者の行動に対して困惑することがある	1	2	3	4	5	6	7		
10	盲ろう者に危険や困難が及ばないように、かまひ守る	1	2	3	4	5	6	7		
11	盲ろう者に不愉快な思いをさせられたときは、本人に苦情を言う	1	2	3	4	5	6	7		
12	盲ろう者とのやりとりで感情的になることがある	1	2	3	4	5	6	7		
13	一生懸命サポートをしても、盲ろう者には理解してもらえない	1	2	3	4	5	6	7		
14	業務時間が終われば、それ以上のサポートをする必要はない	1	2	3	4	5	6	7		
15	できる限り盲ろう者に嫌な思いをさせないようにサポートする	1	2	3	4	5	6	7		

	まったく当てはまらない	1	2	3	4	5	6	7	どちらともいえない	非常に当てはまる
16	盲ろう者の問題は盲ろう者同士で話し合うのがよい	1	2	3	4	5	6	7		
17	盲ろう者の決定や選択に入り込んで、代わりにしてあげることがある	1	2	3	4	5	6	7		
18	自分に負担があっても、盲ろう者の喜ぶ顔を見ることができれば満足である	1	2	3	4	5	6	7		
19	通訳・介助についての悩みや迷いごとがあるときは、盲ろう者に相談する	1	2	3	4	5	6	7		
20	盲ろう者のために、通訳・介助員が先んじて行動することも必要である	1	2	3	4	5	6	7		
21	移動や通訳、コミュニケーション以外の支援も、盲ろう者に提供する必要がある	1	2	3	4	5	6	7		
22	盲ろう者との対話の際、自分から積極的に話題を提供する	1	2	3	4	5	6	7		
23	通訳・介助活動にやりがいを感じる	1	2	3	4	5	6	7		
24	盲ろう者が社会的に問題のある行動をとったときは意見する	1	2	3	4	5	6	7		
25	盲ろう者の希望をありのままに受け入れてサポートする	1	2	3	4	5	6	7		

問 25 通訳・介助活動にあたるうえで、あなたがお困りになっていることがあれば、自由にご記入ください。

調査は以上です。ご協力ありがとうございました。

検討委員会

(1) 検討委員

東京大学先端科学技術研究センター 教授	福島 智
社会福祉法人東京愛育苑金町学園 児童指導員・ 社会福祉法人聴力障害者情報文化センター 要約筆記者指導者養成事業担当	森本 行雄
東京都盲ろう者支援センター センター長	前田 晃秀
盲ろう者向け通訳・介助員	森下 麻利
社会福祉法人 全国盲ろう者協会	村岡 美和

(2) 日程

第1回

日時：平成24年8月12日（日）13:00～16:00

場所：全国盲ろう者協会事務所

第2回

日時：平成24年11月6日（火）13:00～16:00

場所：全国盲ろう者協会事務所

第3回

日時：平成24年11月28日（水）9:30～12:00

場所：全国盲ろう者協会事務所

第4回

日時：平成24年12月21日（金）9:30～12:00

場所：全国盲ろう者協会事務所

第5回

日時：平成25年2月1日（金）15:00～18:00

場所：全国盲ろう者協会事務所

第6回

日時：平成25年2月28日（金）13:00～16:00

場所：全国盲ろう者協会事務所

発行日：2013年3月31日

編集・発行：～日本のヘレン・ケラーを支援する会®～

社会福祉法人 全国盲ろう者協会

〒162-0042 東京都新宿区早稲田町 67 番地

早稲田クローバービル 3F

TEL 03-5287-1140 FAX 03-5287-1141

URL <http://www.jdba.or.jp>

E-mail info@jdba.or.jp